

「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議（第4回）

開催記録

I 開催概要

日 時： 2023（令和5）年3月20日（金曜日）14時30分～16時00分
 場 所： TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川 ホール 5A
 出席者： 以下の通り

表 出・欠席者一覧

有識者	<ul style="list-style-type: none"> ・松浦 晃一郎氏（第8代ユネスコ事務局長）座長 ・木曾 功 氏（元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使）副座長 ・稲葉 信子 氏（国際機関 ICCROM 事務局長特別アドバイザー） ・中井 検裕 氏（東京工業大学 環境・社会理工学院 教授） 【欠席】西村 幸夫 氏（國學院大學 観光まちづくり学部 学部長） ・本保 芳明 氏（国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所 代表）
有識者 オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ・老川 慶喜 氏（立教大学名誉教授） 【欠席】小野田 滋 氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） 【欠席】古関 潤一 氏（東京大学 社会基盤学専攻 教授） ・谷川 章雄 氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授）
オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> ・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区街づくり支援部 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課 ・公益財団法人東日本鉄道文化財団 鉄道博物館 学芸部
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 基盤整備計画部 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 まちづくり部門 ・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 品川開発推進部 ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門
サポート	<ul style="list-style-type: none"> パシフィックコンサルタンツ株式会社

当日配布資料：次第

- 資料 1 [第3回 2/17 有識者検討会議議事録案]
- 資料 2 [常設展示計画の考え方について]
- 資料 3-1 [品川駅街区 計画概要]
- 資料 3-2 [品川駅街区 文献調査報告]
- 資料 3-3 [品川駅街区 建物・構造物の地歴調査]

II 議事要旨

1 開会

- 第4回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議の全体会を開会する。本日は有識者の西村氏、有識者オブザーバーの小野田氏、古関氏が欠席となる。（事務局 JR）

2 第3回有識者検討会議（2/17）議事録確認

- 他に修正意見がなければ前回議事録は確定とする。（座長）

3 常設展示計画の考え方について

- 多くの人は日本の鉄道史に興味があるが、資料では鉄道の歴史の部分が漠然としている。（座長）
- 前回富岡製糸場におけるフランスの関与の話をしたが、新橋～横浜間鉄道において具体的にイギリスがどのように関与して鉄道や築堤を作ったのかがわからない。こういうところを紹介しないとイケない。（座長）
- 大宮の博物館を見ていないが、現状で鉄道の歴史に関する博物館がないことが問題である。（座長）
- 歴史的文献紹介部分に世界の出来事、日本の出来事とあるが、大雑把すぎて関係性や鉄道の歴史の位置づけがわからないのでしっかりと作ってほしい。（座長）
- （仮称）鉄道はじまりギャラリーという名称について、ギャラリーという言葉がよいのか引かかる。（座長）
- 築堤のところはしっかり出来ているが、日本の最初の鉄道である新橋～横浜間の鉄道を世界の人たちに理解してほしいのが私の思いである。（座長）
 - ← 新橋～横浜間鉄道の内容は資料収集より勉強を始めたところであり、完成までにしっかりと取りまとめたい。（事務局 JR）
 - 立派な資料でなくともよく、年表のようなものを提示していただきたい。（座長）
- 座長の意見は、大宮の鉄道博物館で紹介している内容でもあるが、発言の主旨はこの場所で新橋～横浜間鉄道の内容を伝えるべきということでしょうか。（老川氏）
 - ← イギリスの技術と日本の技術がどのように関係していたかを、この場所でしっかりと紹介すべきである。（座長）

- 「明治の築堤と鉄道の誕生」というタイトルについて、あくまで鉄道が先で築堤があるので「高輪築堤の誕生」というような言い回しの方がよい。（老川氏）
- 「どうして海上に作られたのか」という部分は、保存活用計画書の中で記載されるように近年の研究動向などをしっかりと反映してもらいたい。（老川氏）

4 京急線連立および品川駅街区北街区・南街区の検討内容（報告）

- 調査ができない範囲がかなりあるようだが、その場所はどう扱うのか。（副座長）
 - ← 京急線の高架橋は仮受け工事後、西口駅前広場は工事着手後に機能移転が行われた後に調査が可能になる。（事務局 JR）
 - 現段階で調査に入れるのか。（副座長）
 - ← 南横仕切堤の位置が特定されていないため仮受け杭の位置を決めていない。それが決まれば設計していきたい。（京急）
- → 調査が困難な範囲は、仮受け杭の位置が明確になれば工事できると考えてよいか。（副座長）
 - ← 資料 16 ページの⑥において、ピンク色の箇所は既に調査を実施している。南横仕切堤の範囲がわかれば、設計して施工に入りたい。（京急）
 - 調査・保存等検討委員会ではこの部分はまだ検討していない。調査をして仮受け工事ができるかどうかは一義的に調査・保存等検討委員会が判断する。調査範囲が決まらない限り仮受けがどこか、という判断は難しい。（谷川氏）
- 今後の予定は事業者の希望などもしっかりと検討してもらいたい必要がある。表で整理する方がわかりやすいので、谷川氏の指摘を踏まえて作成してもらいたい。（座長）
- 調査する場所は文化財の観点から議論して示してもらいたい必要がある。何か出てくることになれば、そこから文化財の観点で価値等の議論が始まると考える。（副座長）
- 資料 18 ページで試掘調査箇所と示されている部分は、調査が完了しているが最終的な調査結果が上がってきてはいない。追加調査も検討しないといけない。一方 1 工区は調査に入っていない。基本的には地歴調査からはじめ、地形図や写真等の文献を整理して状況を確認し、これまでの調査知見を踏まえて整理する。その上で遺構を想定し、調査を進めていく。これまでも京急連立事業はこの手法で進めてきたので、今後もこの手法で進めたい。（谷川氏）
 - ← 指摘の通り、これまでは施工計画を策定する段階で、具体的な調査を現場の状況に沿って設定し、調査をしながら施工に入っている。この場所で難しいのは掘削して地下を深く掘る計画だが、安全確保のために土留めを作り、構造物を作りながら進めなければ、十分な遺構の確認のための調査を行えないことである。施工計画と全体の調査計画が密接に関係する。引き続き調査方法や箇所は調査・保存等検討委員会で議論していきたい。（JR）
- 今後の調査の進捗に対する有識者検討会の議論のタイミングについて、無理に開催する必要はなく準備ができた段階で議論すればよいと考える。次回の 4 月 25 日までに何が進展して議論できる形になるのか回答してもらいたい。（座長）

← 調査については一覧表があるが、今後の計画についてもスケジュールや場所が明確にわかる資料を文化財行政や谷川氏の指導を受けて早急に作成し、4月25日に提示する。(JR)

→ まずは次回であるが、更に年末までを見越して中長期的なスケジュールが知りたい。目標として年末までに何を行うのか、先の展望を知りたい。(座長)

- 専門性が高く、今までの経緯もあるので、調査の流れは調査・保存等検討委員会で議論してもらいたい。例えば京都や奈良で大規模な開発を行う場合、必ず遺跡が出てくるため、範囲を絞り込みながら必ず事前調査を行っている。今回も可能な範囲の絞り込みを行わなければならない。次回までにその部分を議論して方向性を出してもらえるとありがたい。事業者も時間的な課題があり、安全確保上調査が困難な場所も出てくるため、どう解決するかを議論する必要がある。(副座長)
- 調査は正確なデータに基づき適切に判断することが重要である。調査・保存等検討委員会は調査の方針とともに、現地保存・移築保存・記録保存の仕分けを考えることも大きな役割である。今後も同様に進めたい。(谷川氏)
- 次回議論する内容を整理すると3点である。1点目は新橋～横浜間鉄道の全体の説明とイギリスの関与の部分の整理で、築堤を鉄道の全体像の中でしっかりと位置づけたい。これはJRだけでなく、文化庁も考えなければならない重要な点である。2点目は調査・保存等検討委員会と調整して今後の調査内容やタイミングをスケジュールとして表で示すことである。3点目は事業者として年末までにどこまで進めたいかを示すことである。2～3年後まで描かれるとなおよい。(座長)
- 展示については今後設計を進める中でデザインから記載内容まで専門家を入れて検討してもらいたい。日本における鉄道の全体の説明を含め、展示面積の配分や文章の配分等長い準備が必要である。また、鉄道建設事業としては今後どういう手順が必要なのかを示してもらいたい。(稲葉氏)
- 調査・保存等検討委員会の議論を経て有識者検討会議が開かれると理解している。議論がどこまで進み、論点がどこに残っていて、そのうち有識者検討会議で議論すべきことは何か、整理して示してもらいたい。(本保氏)

← この指摘は次回資料に反映してもらいたい。(座長)

- 説明資料が細かく全体像が見えてこない。これから行うことで大事なことが何かをこの有識者検討会議で判断し、調査の結果や細かい進め方は調査・保存等検討委員会で議論してもらった方がよい。この会議はもっと大きな枠での情報を提供して議論する必要がある。全体での大きな問題点がわかるとよい。(中井氏)
- 次回以降、わかりやすく大きな議論ができるよう、かつ全体の流れがわかるよう努めていきたい。(JR)
- 3工区や駅部ではかなり時間をかけて調査を進めており、結果は港区教育委員会に取りまとめてもらっている。これ以外でも品川駅～泉岳寺駅で同様に調査を進めている。取りまとめを進めていきたい。(京急)

5 その他

- 高輪築堤保存活用計画等策定・検討委員会が3月16日に終了し、年度末までに計画書を取りまとめる。(事務局 JR)

6 閉会

- 本日は終了する。（事務局京急）

要旨以上

III 記録

1 開会

[事務局京急] ただいまより、第4回「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議の全体会を開会する。本日は有識者の西村氏、有識者オブザーバーの小野田氏、古関氏が都合により欠席である。

[事務局京急] 配布資料の確認を行う。欠損があればその申し出いただきたい。

[事務局京急] 本日の次第を説明する。ここからは座長に進行をお願いする。

2 第3回有識者検討会議（2/17）議事録確認

[座長] 他に修正意見はないか。

[座長] 意見がないようなので確定とする。

3 常設展示計画の考え方について

[事務局 JR] 資料2について説明する。

[座長] 築堤については専門的に分析されているが、鉄道史については漠然としている。多くの人は日本の鉄道史に興味があると思う。江戸時代末期から明治にかけて、技術的に日本を支援していたのはイギリスとフランスであり、富岡製糸場の場合はフランスからの技術支援であるが、実態が残っており且つしっかりと保全をしている。鉄道はなかなか説明しにくいと思うが、もう少し鉄道の歴史がわかるよう具体的に示していただきたい。富岡製糸場の場合はフランスの関与だが、イギリスの技術をどう反映して鉄道や築堤を作ったのか、そのようなところを紹介しないといけない。大宮の博物館を見ていないが、鉄道の歴史に関する博物館がないことが現在の問題かと思う。もう一点、資料2の歴史的文献紹介部分に、「世界の出来事、日本の出来事」とあるが、あまりにも大雑把過ぎると思う。関係性や歴史の位置づけがわからない。ペリーの来航は1953年が最初であり、記憶が正しければ、その後、イギリスやフランスと国交樹立の契約を結んでいるはずである。それがイギリスとの協力のベースになっている。まだ調査中であることはわかるが、鉄道の位置づけがわかるようしっかりと作っていただきたい。また、鉄道はじまりギャラリーという名称が引っかかる。ギャラリーという言葉を使うのはどうなのか。築堤のところはしっかり出来ていると思うが、29kmの日本の最初の鉄道を世界の人たちに理解していただきたいというのが私の思いである。

[事務局 JR] 日本の鉄道の歴史として、新橋～横浜間29kmの内容については資料収集等の勉強を始めたところであり、しっかりと取り組みとして続けたい。披露するときまでには取りまとめていきたい。

- [座長] これは何度も言ってきている。このような立派な資料ではなくてもよいので、次回以降でしっかりと反映した年表のようなものを提示していただきたい。
- [老川氏] 座長がおっしゃった発言は、大宮の鉄道博物館でも紹介している内容である。ご発言の主旨は、この場所で29kmの内容を伝えるべきという理解でよいか。
- [座長] イギリスの技術と日本の技術がどのように関係していたかをこの場所ですっきりと紹介すべきである。
- [老川氏] 「明治の築堤と鉄道の誕生」というテーマについて、築堤自体に意味があるわけではなく、あくまで鉄道が先で、そのために築堤がある。「高輪築堤の誕生」というような言葉がよいと思うので、検討していただきたい。また、「どうして海上に作られたのか」という部分は、大隈と井上の写真を強調するのではなく、保存活用計画の中でも記載するように、近年の研究動向などをしっかりと反映していただきたい。
- [座長] 他になれば、次の議題に移る。

4 京急線連立および品川駅街区北街区・南街区の検討内容（報告）

- [京急] 資料3-1について説明する。
- [事務局 JR] 資料3-2、3-3について説明する。
- [座長] 質問や意見はあるか。
- [副座長] 資料からはかなり詳しい地歴調査や試掘調査等が行われており、トレンチを17か所打っているようだが、調査ができない範囲がかなりあるというように受け止めた。その部分はどう扱っていくのか。
- [事務局 JR] 14ページに記載するとおり、調査が困難な場所として、西口の駅前広場、及び、京急線の高架橋がある。西口駅前広場は工事に着手した後、機能移転が行われた後に調査が可能になるので、その際に確認をする。京急線の高架橋は仮受工事後の確認となる。
- [副座長] この部分は現段階で調査に入れるのか。
- [京急] 南横仕切堤等の範囲が特定されていないため、位置を特定し避けるかたちで仮受け杭の位置を決める必要がある。それが決まれば設計を進めていきたい。
- [副座長] 仮受け杭の位置が決まれば工事に入れるのか。
- [京急] 設計を経て工事となる。
- [副座長] 16ページに調査済み範囲等の資料がある。調査が困難な範囲というのは、仮受け地点が明確になれば調査できると考えてよいのか。
- [京急] 16ページの⑥における、ピンク色の箇所はやれる範囲で既に調査を実施している。ただし鉄道営業線を受けているため、あまり深く掘れなかった。できる限りの調査は行っている。横仕切堤の範囲がまだ断定できていないので、それらがわかれば設計し、施工に入っていきたい。

- [谷川氏] 重要な問題であり、調査・保存等検討委員会ではこの部分はまだ議論や検討をしていない。このような進め方には違和感を覚える。調査をして仮受け工事ができるかどうかは、一義的には調査・保存等検討委員会が判断する。調査できる場所、できない場所についてこの段階でそのような情報が出てくることはおかしいのではないか。
- [事務局 JR] 調査・保存等検討委員会でも情報共有資料として類似資料は一度ご提示している。
- [谷川氏] 調査ができるところがどこかという範囲と同時に、どこを調査するかが決まらない限り、仮受け杭の位置がどこかという判断は難しい。
- [座長] 今後の予定についてまだ決まっていないにせよ、京急としてはどういうスケジュールを希望しているかなど、しっかりと検討していただく必要がある。このような今後のスケジュールを踏まえた調査状況の表を、谷川氏の指摘も踏まえて作成していただきたい。
- [副座長] どこの部分を調査するかは、文化財の観点から調査する訳であり、明確に調査すべき場所を議論して示していただかないといけない。その上で、なにか出てくるということになれば、そこから文化財の観点で価値等の議論が始まると考える。
- [谷川氏] 現在、18 ページで3工区の試掘調査箇所が示されている。ほぼトレンチは開け終わっている。ただ調査結果が最終的に上がってきてはいない。その結果次第で追加調査をするかもしれないため、それに関して検討しないとけない。一方1工区はトレンチ調査に入っていない。基本的に今日の資料のように地歴調査が出発点であり、地形図・写真等の文献を整理して、状況を認識することが重要である。合わせて1~4街区は既に発掘調査をしており、築堤と東海道の間の調査は現在進行中である。そこから重要な遺構が出てきているのは、既に調査・保存等検討委員会で報告済みである。これらのこれまでの調査の知見が検討に加わってくる。その上で、今回は全面発掘ではなく、部分的な試掘調査のため、やみくもに掘るのではなく、開発の範囲でどういう遺構が想定されるか、想定される遺構を念頭に置いた形で進めていかなければならない。その結果より保存措置を考える段取りだと考える。京急連立事業はそのような手法で進めてきた。この駅街区の部分もこれまで通りの進め方で行いたい。
- [座長] 事務局からの回答を求める。
- [JR] 事業者を代表して発言する。谷川氏の指摘の通り、これまでは施工計画を策定する段階で、具体的な調査を現場の状況に沿って設定し、調査をしながら施工に入っている。この場合で難しいのは、実際に掘削して地下を深く掘る計画だが、国道と山手線に挟まれたところで、安全を確保するために土留めを作り、構造物を作りながら進めていかなければ、十分な遺構の確認のための調査が行えないことである。施工計画と全体の調査計画の関係が密接に関係しており、引き続き、調査方法や箇所については、ご指導いただきながら、調査・保存等検討委員会で議論していきたい。

- [座長] 回答を求めたいのは、有識者検討会議での議論のタイミングである。その場で有意義な議論が行えるのであればそれでよいが、難しいならば無理に開催する必要はなく、準備ができた段階で議論すればよいのではないか。4月25日までに何が進展して、議論できる形になるのか、回答していただきたいということである。
- [JR] 調査については一覧表があるが、今後の計画についてスケジュール感や場所を整理しなさいということであった。事業者側で、いつまでにどのような工事を行い、いつまでに調査ができるのか、わかりやすく取りまとめ、早急に作成する。それを次回4月25日に提示できるように進めていきたい。いずれの段階で文化財行政、谷川氏の指導を頂きながらまとめていきたい。
- [座長] とりあえず次回のこともあるが、さらに今年の末までを見越して、中長期的なスケジュールが知りたい。あくまで目標として2023年末までに何をやりたいのかなど、予定の調整もあるので把握しておきたい。今すぐではなくてもよい。先の展望を知りたい。
- [副座長] 専門性の高い部分であり、今までの経緯もある。やみくもにトレンチを開けても仕方がなく、蓋然性の高いところに絞り込んで調査するという流れについては、調査・保存等検討委員会で議論していただきたい。文化財行政に関わってきたが、一般論として道路の施工や、大規模開発をするといった場合、特に京都や奈良では遺跡が出てくる可能性が相当高い。事前調査を必ず行っている。全面調査はできないが、可能な範囲で進める。今回についても、どこかでその絞り込みを考えていかねばならない。いずれにしても次回までにそのあたりを議論し、方向性を出していただけるとありがたい。事業者の京急も時間的な問題がある。品川再開発全体のタイムスケジュールも関係してくるであろうし、そのあたりも含めて整理していただく必要がある。安全確保上調査が困難な部分も出てくると思われる。どう解決するのかも議論する必要がある。
- [谷川氏] 調査については、正確なデータに基づいて適切に判断することが重要と思われる。調査・保存等検討委員会は調査の方針を考えることに加え、現地保存、移築保存、記録保存の仕分けを考えることも大きな役割である。今までもそのように進めてきたので、同様に行ってほしい。
- [座長] 谷川氏がおっしゃられた3つの保存は重要である。しっかりと議論していただきたい。4月25日に何を議論するか、私なりに整理すると3点ある。1点目は、全体像の説明で29kmやイギリスの話について表にして整理していただきたいということである。次回までに大宮の鉄道博物館も拝見したい。日本の鉄道史、鉄道全体像の中での築堤の位置づけを検討したい。これはJRだけでなく、文化庁も考えなければならない重要な点である。2つ目は、調査・保存等検討委員会と調整して、今後の調査の内容やタイミングをスケジュールとして表にして示していただきたい。3つ目は、事業者として年末までにどこまでもっていききたいのか、提示していただきたい。2~3年後であればなおよい。

- [座長] 他の委員の方からも発表いただきたい。
- [稲葉氏] 展示について、あくまで事業者案であるのでこのまま先に進むかどうかはわからない。今後設計を進めていく中で、デザインから書き込む内容まで、専門家を入れて検討を行っていただきたい。座長からも話があったように、日本における鉄道の全体をどう説明するかということも含めて、展示面積の配分、展示内容の文章の配分など、これから長い準備が必要である。もう一つ、後段の議論については、鉄道建設事業として、今後いつまでに、どういう手順が必要なのか示していただきたい。
- [本保氏] 基本的には座長が取りまとめたとおりに進めていただければ良い。調査・保存等検討委員会でいつまでに、どこを調査するか議論されると思うが、それを踏まえて有識者検討会議が開かれると理解している。表にまとめる際に、議論がどこまで進み、論点がどこに残されていて、そのうち有識者検討会議で議論すべきことは何か、整理して示していただきたい。
- [座長] 今の指摘の点も次回資料に反映していただきたい。
- [副座長] 本保氏の意見に同意する。具体的にどこが問題なのかをクリアにしていきたい。次回、一緒に議論できるような論点の整理が必要である。
- [中井氏] 各有識者の通りであるが、説明資料が細部過ぎて全体像があまり見えてこない。これから行おうとすることで大事なことは何かを、この有識者検討会議で判断していただき、調査の結果や細かい進め方は調査・保存等検討委員会等で議論していただいた方がよい。この会議は、もっと大きな枠で情報を提供して議論する必要がある。全体で大きな問題点がわかるとよい。
- [谷川氏] 順序だててデータに基づき判断していきたい。
- [老川氏] 谷川氏の通りで、他に意見はない。
- [座長] 事業者側からの意見を頂きたい。
- [JR] 頂いた意見はごもっともと認識する。次回以降、わかりやすく大きな議論ができるよう、かつ全体の流れがわかるように努めていきたい。文化財行政にもご指導いただきたい。
- [京急] 3 工区や駅部ではかなりの時間をかけて調査を進めている。調査結果は港区教育委員会に取りまとめでいただいている。それ以外で品川駅～泉岳寺駅でも同様にトレンチ調査の準備を進めており、調査・保存等検討委員会の指導の下取りまとめを進めていきたい。
- [文化庁] 特に意見はない。
- [座長] 他になければ、次の議題に進む。

5 その他

[事務局 JR] 保存活用計画の委員会は3月16日に最終回として委員会での議論が終了した。いただいたご指摘も踏まえて修正し、年度末までに計画書を取りまとめる。

[座長] その他、何か意見や追加議題はあるか。なければ本日は終了する。

6 閉会

[事務局京急] 本日は終了とする。

以 上